〈訳注研究〉

『大尊者ミーラレーパの甚深なる伝記』試訳（2）

渡　邊　温　子

はじめに

本試訳は『大谷大学真宗総合研究所研究紀要』第35号に掲載された試訳に続くものである。今回訳出を試みた『大尊者ミーラレーパの甚深なる伝記（*rJe btsun chen mo mid la ras pa'i rnam thar zab mo*）』は、ミラレーパ（Mi la ras pa bzad pa'i rdo rje, 1040-1123）の直弟子であるゲンゾンレーパ（Ngan rdzong byang chub rgyal po）を始めとする12人の弟子たちによって書かれた、数あるミラレーパ伝の中でも最初期の作品である[1]。

「『大尊者ミーラレーパの甚深なる伝記』試訳（1）」では、マルパ翻訳師のミラレーパに対する厳しい態度に耐えかねたマルパの妻ダクメーマが、ミラレーパをゴクトンパのもとへ法を学びに送り出した所までを翻訳した。以下はそれに続くものである。

［試訳続き］

それから〔ゴクトンパは〕無我母の加持とチャンダーリーの炎[2]の指導を〔トゥチェンに〕授けて修行をさせた。ゴクの妃は、

「トゥチェンよ、あなたは参籠なさい。ラマも洞窟へ行けとおっしゃってい

1　ミラレーパの伝記は数種類存在するが、今回は15世紀にツァンニョン・ヘール（gTsang smyon he ru ka rus pa'i rgyan can）によって書かれ、現在最も普及している『道説示（*rNal 'byol gyi dbang phyug dam pa rje btsun mi la ras pa'i rnam thar thar pa dang thams cad mkhyan pa'i lam ston*）』とのみ対照させた。

2　ナーローパの六法の一つ。身体のルンをコントロールすることによって、丹田の辺りに熱を生じさせる。カムのナンチェン（nan chen）にあるディクン・カギュー派のガル寺院（mgar dgon）では、僧侶たちが３年間のマハームドラーの行から出た時、真冬の寒さのなか水に浸した一枚の布を身に着けて法要を行う。

ます。私が、小間使いをして食べ物を運びますから、修行に専念なさい」
と言った。しかし、功徳は生じず、何もならなかった。そんなある日、ラマ・ゴクが、

「トゥチェンよ、私のこの伝統では三昧耶〔戒[3]〕を犯したのでなければ、善根が生じないということはありえない。お前がここに来たのは、ラマの［14］命令か」
と言うので、

「ラマの命令ではありません。妃の命令です」

「ならば何も起こらないはずだ。私たち２人の指導と修習も無駄骨である。ラマ・マルパの城も完成したそうだ。城の〔完成した〕祝宴で、弟子たちは負担を強いられるそうだ。私も２歳になった羊を100頭と毛織物を100枚、100のはだか麦と100個のバターケーキ[4]などを持って来いと言われた。私たち２人で行かなければ」

「私には捧げる物がないので、恥ずかしいです」

「お前に多くの供物を望まれないだろう。供物となる物を私が与えよう」

白銅で出来た小さな四つ足の器を与えられ、それを携えて、師弟二人でたくさんの供物を携えて行った。

4）再びマルパのもとへ

マルパのもとに近づくと、〔ゴクトンパは〕トゥチェンを〔マルパの〕御前に行かせた。〔トゥチェンが〕妃ダクメーマに会うと、〔彼女は〕喜んで、

「供物を運んで、他の者たちも来ています。お前が来てよかった。さあ、お前はラマの御前に行ってお願いしなさい。ゴクが来ているならば、偉い方なので私たちが迎える必要があります」
と言った。〔トゥチェンは〕ラマのもとへ行って礼拝した。ラマが顔を背けたので、

「ラマよ、私に対してお怒りでしょうが、ラマ・ゴクがたくさんの供物として馬と家畜を率いて来ておられますので、お迎えする必要があるのではないで

3　密教における誓約。
4　バターと大麦の粉を混ぜて焼かずに作った固いケーキ。

しょうか」

「私がインドから即身成仏する教誡であるタントラを持ち帰った時、迎えの者はおろか犬一匹さえも来なかった。今、ゴクが畜生を引き連れて来たからといって迎えが必要というのなら、向こうへ〔家畜を〕連れて帰れ」

と言うので、妃に伝えた。〔妃は、〕

「師はなんと酷いのでしょう。ゴクを出迎える必要があります」

と言って、妃が［15］出迎えた。ラマもゴクと高弟たちが来たことを歓迎し、密教のマンダラを作った。数限りない供物が並べられ、ゴク、メー〔トン・ツンポ〕、ドル〔・ツルトン・ワンゲ〕、ミーラなどの高弟たちと、全ての弟子が集まって、壮大な祝宴が開かれた。御前にいたゴクに対してラマ・マルパが、

「我が息子トゥチェンがお前のもとへ行ったようだが、教誡を与えたか」

と言うので、

「ティロー、ナーローの御髪、数珠、毛織物などを持ってきましたので、〔教誡を〕授けました」

と〔ゴクは〕答えた。〔ラマは〕妃を鉄の棒で打ち据えた。

「私がこれらをラマのもとから盗みました」

と言って妃は泣いた。〔ラマは、〕

「さあ、問題ない。酒をガナチャクラ[5]のために持って来い」

と言った。それから皆は眠った。ラマ父母２人と、ゴクとミーラ２人の４人だけになって、甚深なる四符牒の灌頂とチャンダーリーの炎[6]を紹介する教誡と甚深なるタントラの教言の全てを授けられた。ミーラも２人のラマが本物の仏であるという想いが真に[7]生じた。そして翌朝、大きな祝宴が開かれた。その宴の席で、マルパは次の歌をうたった。[8]

「南無

5　密教行者たち修行のために行う宴会のこと。

6　dbang zab mo brda' bzhi dang/ gdams ngag gtum mo'i ngo sprod.

7　kha zhe med par.「二心ない」の意味。

8　『道説示』では、マルパの息子タルマドデのために建てた城が完成した祝の席でマルパがうたった「吉祥授権の歌（bkra shis mnga' gsol gyi mgur）」となっている（『道説示』37b）。

恩あるラマに礼拝します
我が宝である伝統には
堕罪のない吉祥がある
その吉祥によってまた吉祥よ来れ
錯誤なき財の吉祥がある
その吉祥によってまた吉祥よ来れ
私、マルパ翻訳師には
甚深なる要点の吉祥がある
その吉祥によってまた吉祥よ来れ
ラマ・本尊・ダーキニーには
加持が成就する吉祥がある
その吉祥によってまた吉祥よ［16］来れ
高弟によるガナチャクラに
信仰と三昧耶戒の吉祥がある
その吉祥によってまた吉祥よ来れ
遠近にいる施主の村人に
順縁の資糧を積む吉祥がある
その吉祥によってまた吉祥よ来れ
一切の業と行いに
菩薩の吉祥がある
その吉祥によってまた吉祥よ来れ
現れて存在する神と魔に
強力な指令の吉祥がある
その吉祥によってまた吉祥よ来れ
ここに集いし街の神と人に
幸と祈願の吉祥がある
その吉祥によってまた吉祥よ来れ」

〔そしてうたい終わると〕
「ラマ・ゴクの荘園の者とトゥチェン、ゴクの妃は一度来なさい」と〔ラマが〕言うので、

「一度参ります」

「では、早く戻って来い。さあ、教言はたくさんないので、甚深な指導を刻み付けよう」

と〔ラマが〕言うので、喜んで到着を急いだ。

「金剛鈴如意宝珠[9]をお授けください」

とゴクが申し上げると、〔マルパに、〕

「私に金剛鈴を頼むならば、供物が必要である」

と言われた。供物として家畜の羊は全て連れて来て捧げたが、

「捧げ物が足りない」

と〔マルパに〕言われた。

「ラマよ、私の年老いたディ[10]は、全ての家畜の生みの親であるため連れて参りませんでした」

「では、私の金剛鈴も一切の法の生みの親であるので、やるわけにはいかない」

〔とマルパが言うので、ゴクは、〕ディの綱を引いてきた。

「さあ、今連れてきたことだけで十分だ。私にこのディは無用である。法の威厳がなくなれば、法が無くなるので理解しなさい。そもそも、私のこれらの教誡で、世俗を投げ捨てた者に対してなされた供物を受け取るべきではない。修習できたならば、一切の供物は付随してくる。[17] 今生に目を引きつけられている凡夫に教えるべきではない。あなた、ゴクは、それぞれ〔の生〕で〔何〕劫にも渡って資糧を積んだ福徳ある者だ。他の者に、そのように許可してはならない[11]」

〔マルパはゴクに〕金剛鈴を取り出して[12]授けたので、喜んだ。ミラは、(〔他の〕人の供物はたくさんあるが、私のこの銅を捧げても〔ラマは〕お喜びくださるだろうか) と思いながら、その銅を捧げた[13]。〔ラマは〕非常に喜び、杖で銅を叩いて、中と外を隈なく見た。

9　snyan dril yid bzhin nor bu.

10　雌のヤクのこと。『道説示』ではディではなく、足の折れた羊になっている。

11　gzhan la de bzhin du mi gtub とあるが、btub の誤記と考えられる。

12　snyan nas snyan dril bton nas. snyan nas をここでは重複する語気ととり、意味を訳さなかった。

「善きかな善きかな、この供物は素晴らしい
この銅は高価でないので、自身を益する
四つ足があるので、四方へ広がる
よく響くので、名を轟かす
外が汚れていないので、三昧耶が清浄である
中が赤いので、ダーキニーが集う
素材が良いので、伝統が良くなっていく」

〔とうたって、〕
「お前は私に捧げたこの時に、穀物を中に入れなかった。そのため法の糧が枯渇するが、どんなに腹を空かそうとも、死ぬことはない」
「では、麦で満たし〔直し〕て捧げます」
「もう同じことだ。そもそも、妃とお前の2人は心が小さい。私の築城作業に性急にならなければ事は簡単だったのだ。法には忍辱が必要である。将来そうなるだろう」
と〔マルパは〕言った。
メートン・ツンポとツルトン・ワンゲ、シュンのゴクトン・チュードル、グンタンのミーラレーパの4人が〔マルパの〕四大弟子である。〔マルパは彼らに〕他に類を見ない教誡と、甚深な灌頂を授けた。初夜に灌頂を授け、後夜に修習させた。晨朝に法を説き、夜に修習をさせた。ある夜、無我母の甚深な灌頂を授けた［18］夜明けに、高弟たちが何をしているのか〔マルパは〕見てみた。ツァンロン（gtsang rong）のメートン・ツンポは光明[14]を修習していた。〔マルパは〕（自分には壺の中の火のような光明があるが、この者が伝えてゆくだろう）と思った。ドルのツルトン・ワンゲは、転移を修習していた。〔マルパは〕（自分には窓に弓を射るような転移があるが、それをこの者が伝えてゆく

13　『道説示』では、法を授かる前ではなく、トゥチェンがマルパのもとへやってきてすぐの時期に銅を捧げている。また、以下に続く短い歌も『道説示』にはみられない（『道説示』25a-25b）。

14　それぞれ光明、転移、チャンダーリーの炎はナーローの六法の一つ。ナーローの六法に関してKragh氏の子細な研究がある（Kragh 2015）。また拙稿（2018）を参照のこと。

だろう）と思った。シュンのゴクトン・チュードルは経を読んでいた。〔マルパは〕（私には大河の流れのような注釈書があるが、それをこの者が伝えてゆくだろう）と思った。〔マルパが〕ミーラレーパを見ると、ルンを捕まえていたので[15]、（私には枯れ木が火で燃えるようなチャンダーリーの炎があるが、それを伝えてゆくだろう）と思った。〔マルパは〕ここに成就者が生まれようとしていると考えた。

それから、ミーラに寂静処へ〔行くように〕、そして妃に酒とガナチャクラの準備をするように〔マルパは〕言いつけた。口伝符牒の四灌頂とチャンダーリーの炎の要点の教誡、プラーナーヤーマ[16]、和合往生[17]、口伝の教誡、五次第の直伝などを巧みに指導した。隠したり、見せかけたりすることなく授けてから、〔マルパは〕次の歌をうたった。

「南無
恩ある方に礼拝します
思いの教誡はこれである
多くを得ようとするのは放逸の原因
要点の御言を心に留めよ
あれやこれやと多くあっても、これ自体はない
小枝が多くあっても実はない
福徳であっても意味を示さない
以前[18]教えたとしてもこれを見ることはない
『釈タントラ[19]』が多くとも益はない
益を心に持つことは聖なる宝
豊かな財産が［19］欲しければここに収束せよ
法は煩悩を調伏する方便の道

15　rlung 'dzin bzhin 'dug pas/ 体内に流れるルン（風）に自在になった状態と推測される。

16　srog rtsol.　体内の生命エネルギーを調節する修行法。

17　bsre 'pho.　法界と心識を一体化させ、法性光明のままで移転すること。

18　de 'dra『道説示』50b).

19　bshad rgyu『道説示』50b).

堅固な道を取るならばここに収束せよ
心失望することは知足の師
良き師を欲するならばここに収束せよ
輪廻という苦しみの怠惰を捨てよ
人のいない岩場は父の城
友なく一人たたずむは神の国
疲れない馬である心に心を乗せよ
己の身体は寺廟
不放逸な善行は最高の薬
真意に精通した者には
真意を妨げぬ教誡を与える
私と教誡と汝の三つ
腐敗せず、殺さず、干上がらず
息子の手に置いたことにより
実と葉が大きくなるように」

とうたい、
「私のこの教誡は子息ドデのような者以外に与えてはならない。誰や彼やに与えるな」
と言って封印した。
それから〔トゥチェンが、〕
「私ももう故郷に戻りたいと思います。行かせてください」
〔と言うと、〕
「まだお前は数日行ってはならない。私が良い縁起に整えることがある」
と言われた。
それから数日して、ラマの御前で、
「さあ、お前は行くならば行って修習せよ。インドに無身ダーキニーの教えが9つあるが、〔そのうち〕4つは私が授かった[20]。5つはまだ残っているので、ナーローパの弟子のもとへ行って授かる必要がある。お前が行くことが出来れ

20　無身ダーキニーの教えについては拙稿（2012）を参照のこと。

ば、衆生のためになろう。悟れたならば、ラマへの侍従と父母の恩と衆生への利他全てを一度に成就する。悟れなければ、長生きしようとも無意味だ。悪しきまま長生きし、悪業を多く積むことのないように努めよ。いつか［20］問題が起きた時には、この巻物を解いて見なさい。それまでは見てはならない。幾度も幾度も私のことを念え。精進せよ。私も何度もお前のことを念おう。念うことを違えなければ、私たち２人が誤ることはない」

と言われた。〔トゥチェンの〕気持ちはやわらぎ、心を打たれて、肉に刻み込まれた。〔トゥチェンは〕修習に努めている時でも、〔ラマの〕それぞれの言葉を念じ、また、力がますます増していったそうである。

5）マルパとの別れ

ミーラが、

「行きます」

と言ったので、ダクメーマは無常を強く感じ、トゥチェンに次のように言った。

「お前は意志が強く罪に耐えた者
長い間耐え抜いた
有縁であるお前は
ラマの智慧の甘露を
十分に飲んでおゆきなさい[21]
父と母の２人を忘れずに
祈願を何度も叫びなさい
心を益する教誡を
いっぱい食べておゆきなさい
恩と父母を忘れずに
恩を思って精進なさい
ダーキニーの甚深な吐息の服を
温かく身につけおゆきなさい[22]

21 『道説示』ではこの後に、phyi ma dag pa'i zhing khams su//ngo shes bzhin du brad par smon//が挿入されている（『道説示』54a）。

22 『道説示』ではこの後に註21と同じ文章が挿入されている（『道説示』54a）。

決して衆生を忘れることなく
己の心を菩薩道におきなさい[23]
福縁の女、ダクメーマが
息子に大切な話をいたしました
息子も忘れることなく心に留めなさい
母も本尊と護法尊として守ります[24]
心の通った母子二人が
ウッディヤーナの地[25]で再会できますように
報恩である法を転じなさい」

ミーラは喜んで、（私はまだ法を行わず、山に行こうか）という考えが起こった。ラマと妃が受け入れて、全ての教誡が［21］円満となったので、

「さあ、私は参ります」

と言って、ミーラは早朝ツァンに行く次の歌[26]をうたった。

「尊者、不動金剛よ
乞食を一度故郷へ行かせてください
私は母の身体の器が
いまこの時、壊れたか壊れていないか確認したい
吉祥を運ぶ妹のペタが
いまこの時、死んだか死んでいないか確認したい
隣人のユンペル小父が
いまこの時、死んだか死んでいないか確認したい
ガルーダの食である吉祥を運ぶ叔母が

23 『道説示』ではこの後に、theg chen sems bskyed bstan pa'i khur//che bar snoms la bzhud par zhu//phyi ma dag pa'i zhing khams su//ngo shes bzhin du brad par smon//が挿入されている（『道説示』54a）。

24 yid la tur re byed//『道説示』54a).

25 dag pa'i zhing khams『道説示』54a).

26 『道説示』では、うたわれる項目の順番などが書き換えられている（『道説示』49a-49b）。

いまこの時、幸せか幸せでないか確認したい
四柱八梁の建物が
いまこの時、倒れたか倒れていないか確認したい
四角い八階建ての要塞が
いまこの時、壊れたか壊れていないか確認したい
ウルモドゥスム（ur mo gru gsum）と呼ばれた畑に
雑草が生い茂っているか茂っていないか確認したい
正法の広大な書物[27]が
いまこの時、あるかないか確認したい
ラマ・クンニェル・ラブムが
いまこの時、元気でおられるか確認したい

尊者、不動金剛よ
乞食が一度故郷に戻るにあたり
送迎と歓迎を全てしてください
障碍と悪縁を取り除いてください
身口意を守ってください
祈願と責任の縁起をください
悲心と力の灌頂を授けてください
ルンと口伝の援助をしてください
無病長寿の吉祥をしてください
乞食の苦楽はあなたが知っておられます
山中におれるよう加持してください」

〔マルパは、〕
「アボ・トゥチェンよ、疑う必要はない。お前のことを私は知っているし、私のこともお前は知っている。法を行うことが出来たならば、私も喜ばしい。これ以上に嬉しいことはない。お前もこれ以上に［22］嬉しいことはないので、

27　dam chos glegs bam rgyas pa.『道説示』では dam chos dkon mchog brtsegs pa となっている（『道説示』49b）。

喜ばしい。精進しろ、精進しろ」
と言って、次の歌をマルパはうたった。

「尊者ラマたちに礼拝します
行が法と一致する息子が
身は仏の化身[28]を成就しますように
口は金剛を念じる甘露の味で
縁起である報身を成就しますように
心の根に菩提の枝
法身[29]の葉が広がりますように
ラマの御言は金剛の御言
心の底に忘れることなく留まりますように
本尊とダーキニーの加持が
命根に住しますように
護法尊の援助が
離れることなく守ってくれますように
良縁の祈願が
早く本性として成就しますように
法を行う全ての悲心が
いつのときでも摑んでいてくれますように
お前を、ツァンのシルマ峠の頂で
12人の女神[30]が歓迎する
明日、赴く道中で
勇女ダーキニーが見送る
執着している故郷の砦と田畑には
無常と幻の正法[31]がある

28　chos sku sangs rgyas『道説示』53a).
29　sprul sku'（『道説示』53a). 『甚深伝』と『道説示』で法身と化身が入れ替えられている。
30　brtan ma bchu gnyis. チベットを守護することを誓った12人の土地神のこと。
31　slob dpon『道説示』53a).

魔女のような叔母の近くには
幻が壊れる教誡[32]がある
人の住わぬ地の洞窟には
輪廻を涅槃に変える市場がある
精進という身体の寺には
神と善逝が集まる御堂がある
病のない食のガナチャクラには
ダーキニーが喜ぶ甘露がある
身体が変化するハタ・ヨーガ[33]には
果として宝が生まれる福徳がある
誰にも顧みられないような自分の土地には[34]
急に放逸となることのない善行がある
人も犬もいない堅い参籠には
徴がすぐに出る灯明がある
捧げられる食のない自分の食には
［23］楽という神の財産がある
影が晴れた神の無量宮には
偉大な自利を成就する見世物がある
表裏のない神の法には
清浄な三昧耶戒の偉業がある
命を成し遂げる衆生には
あらゆる成就の鉱脈がある
正法、ダーキニーの命心の真言には
輪廻と涅槃の分岐点がある
マルパ翻訳師の弟子筋には
たくさんの喜ばしい話が入ってくる
ミーラレーパの精進には
仏の教えの核心がある[35]」

32　同上。
33　'khrul 'gor.
34　yul mi rtsigs chung rung yul der//『道説示』53a).

とうたって、

「さあ、息子トゥチェンよ、ゆくならば私が送ろう」

と言った。

妃が上等の酒とガナチャクラを準備し、必要な旅の食料全てを〔トゥチェンに〕与えた。妃も感情が高ぶって、たくさん涙を流した。父母〔マルパとダクメーマ〕と従者30人ほどが朝〔トゥチェンの〕見送りとして付いて来た。〔マルパは〕別れを惜しみ悲しみ、腹を割って話をして、体を思いやるムドラーをたくさん作った。ガナチャクラを東西が見渡せる山の上でおこない、マルパはミーラの手を取って、

「我が伝統をお前が受け継ぐという夢を見た」

言って、四柱弟子の歌をうたった[36]。

「尊者ラマたちに礼拝します

太陽の東に大きな柱が一本立っているのを夢みた
柱の上で獅子が意丈高にしているのを夢みた
獅子に青い鬣が生い茂っているのを夢みた
獅子が雪山の頂で奮迅しているのを夢みた
東の夢は悪くない、良き夢だ

太陽の南に大きな柱が一本立っているのを夢みた
柱の上で虎が威厳を誇示しているのを夢みた
虎の縞の毛が端から広がっているのを夢みた
三度笑ったのを［24］夢みた
草の中を飛び回るのを夢みた
松の実を夢みた
南の夢は悪くない、良き夢だ

35　この後『道説示』では「〇〇の吉祥あれ」という文章が続く（『道説示』53b）。

36　『道説示』ではミラレーパが見た夢をマルパが解釈する形に書き換えられており、内容も変化している（『道説示』46a-48a）。

太陽の西に大きな柱が一本立っているのを夢みた
柱の上に大きなガルーダが降り立つのを夢みた
ガルーダに大きな翼があるのを夢みた
毛が空に紛乱するのを夢みた
目は上を見上げているのを夢みた
西の夢は悪くない、良き夢だ

太陽の北に大きな柱が一本立っているのを夢みた
柱の上に鷲が降り立っているのを夢みた
鷲に大きな翼があるのを夢みた
鳥の巣が岩場にあるのを夢みた
その鳥に息子が一羽生まれるのを夢みた
鳥の群れで空がいっぱいになっているのを夢みた
北の夢は悪くない、良き夢だ

私はこれまで、歌を繰り返したことはない
しかし今回はこの言葉を明らかにしよう[37]

太陽の東に大きな柱が一本立っていたのは
ドルのツルトン・ワンゲを示す
柱の上で獅子が意丈高にしていたのは
彼の性格が獅子のようであることを示す
青い鬣が生い茂っていたのは
ラマの教誡を理解することを示す
獅子が雪山の頂で奮迅していたのは
教誡の伝統を受け継ぐ徴である
素晴らしい東の夢はそういう意味である

37　一般的には夢は昼間行ったことの習気が現れたものにすぎないと考える。しかし、ミーラレーパも弟子のガムポパが見た夢を解釈しているように、夢が特別な意味をもつことがある。

太陽の南に大きな柱が一本立っていたのは
シュンのゴクトン・チュードルを示す
柱の上で虎が威厳を誇示しているのは
彼の性格が虎のようであることを示す
虎の縞の毛が端から広がっていたのは
ラマの教誡を理解することを示す
三度笑ったのは
説法の伝統の教えが広がる徴である
虎が草の中を飛び回ったのは
この生で成就を得る徴である
松の実は
息子が伝統を受け継ぐ徴である
素晴らしい南の夢はそういう意味である

太陽の西に大きな柱が一本立っていたのは
ツァンロンのメートン・[25] ツンポを示す
柱の上に大きなガルーダが降り立ったのは
彼の性格がガルーダのようであることを示す
ガルーダに大きな翼があったのは
ラマの教誡を理解することを示す
毛が空に紛乱したのは
教誡の伝統を受け継ぐ徴である
目は上を見上げていたのは
輪廻に別れを告げる礼拝をする徴である
素晴らしい西の夢はそういう意味である

太陽の北に大きな柱が一本立っていたのは
汝、グンタンのミーラレーパである
柱の上に鷲が降り立っていたのは
汝の性格が鷲のようであることを示す
鷲に大きな翼があったのは

ラマの教誡を理解することを示す
鳥の巣が岩場にあったのは
生活は岩よりも堅い徴である
その鳥に息子が一羽生まれたのは
比類なき者になる徴である
鳥の群れで空がいっぱいになっていたのは
口伝の教えが広まる徴である
素晴らしい北の夢はそういう意味である

年老いた私の口を信じるならば
法を修習する伝統の教えは広がる」

〔トゥチェンは〕鼓舞されて、（私は精進することができなければ、〔命など〕無用だ）という、高く深い決意が心に起こった。

〔トゥチェンは〕ラマ・マルパとゴクの二人に対して、本当の仏だと思う信仰を確かにした。ラマの御足を〔頭で〕頂いて、良き祈願をした。ラマも指を〔トゥチェンの〕胸に向けて、良き祈願を口にし、師弟二人が別れる堪え難い悲しみの歌をたくさんうたった。〔トゥチェンは〕サパクマプー（sap hag ma bud）まで、名残を惜しんで何度も振り返った。ラマと師弟たちはロダクのグーカル（gos dkar）山の頂で、まだ暗い顔を［26］していた。

「心に境界を示す大きな意志があるわけではない。それに一年かかる[38]」
と〔ラマは〕言った。〔それでもトゥチェンは〕何度も振り返った。ラマ・マルパは、

「あいつが何度も見ているのは、私を念って振り返っているだけで、〔本当は〕意志の強い者だ」
と言った。

尊者〔トゥチェン〕も心に（どんな行いをしようとも、法を行おうという信念をずっと持ち続け、ラマを念じよう）という思いが起こった。〔トゥチェン

38　yid la bcad rdo chen po yod pa min pas/ de la lo gcig byas. 意味を確定しかねるが、ひとまず上記の意味にとる。

は〕心痛めたまま故郷へと向かった。ラマは上方に行って、

「我が息子は法を正しく行うことが出来るだろう」

と言った。

以上が苦行と精進についてである。最初の前半生の話である。

略号および文献表

gTsang smyon he ru ka rus pa'i rgyan can

rNal 'byol gyi dbang phyug dam pa rje btsun mi la ras pa'i rnam thar thar pa dang thams cad mkhyan pa'i lam ston. 大谷大学図書館所蔵の木版本（蔵外 no. 11854）。【略号『道説示』】

Mi la ras pa bzhad pa'i rdo rje

rJe btsun chen mo mid la ras pa'i rnam thar zab mo. In *rJe btsun mi la ras pa'i gsung 'bum*. vol. 1, dPal brtsegs bod yig dpe rnying zhib 'jug khang. 2011. 【略号『甚深伝』】

Kragh, Ulrich Timmer.

2015 *Tibetan Yoga and Mysticism: A Textual Study of Yogas of Nāropa and Mahāmudrā Meditation In the Medieval Tradition of Dags po.* Studia Philologica Buddhica Monograph series 32, Tokyo: The International Institute for Buddhist Studies.

渡邊温子

2012「レーチュンパからミラレーパに伝わる「無身ダーキニー」の教えについて」『印度学仏教学研究』60(2)：1071-1067。

2018「ナーローパの法について――インドからチベットへの密教伝播についての一考察」『日本チベット学会々報』64：13-22。

（本研究は JSPS 科研費 JP17K13334の助成を受けたものである。）